

**ATLIA**

川口市立アートギャラリー・アトリア

| 年報 | Annual Report |

2021.4–2022.3

---

## 目次

基本理念／沿革	2
令和3年度 実施事業一覧	3
秋の企画展 第15回アーティスト・イン・スクール	4
新春企画展 アートな年賀状展2022	8
特別展 川口市寄贈作品展	10
ワークショップ／成果展示	12
たのしい実技講座／やさしい鑑賞講座／アートさんぽ	14
地域・学校連携（共催）事業	16
アトリア・サポートスタッフ	17
貸しギャラリー事業	18
令和3年度 実施事業件数・利用者数一覧	19
発行物／スタッフ	20
利用案内	21

## アトリアがめざすこと

川口市立アートギャラリー・アトリアは2006（平成18）年4月にオープンした小さなアート施設です。現代アートの展覧会や地域に根ざした事業を展開し、市民が新しい表現に出会い多様な価値観を共有する場を目指しています。

アトリアの活動には5つの大きな柱があります。「企画展・アートウォッチング」「ワークショップ・アートさんぽ」「講座（たのしい実技講座、やさしい鑑賞講座）」「連携事業（地域連携、学校連携）」「貸しギャラリー事業」。これら5つの柱をゆるやかに結びながら、ものづくりのまち川口におけるアート活動の拠点として、様々な垣根を超えてアートの根をひろげます。

### ■ 企画展 ■ アートウォッチング

現代アートやデザインをはじめ、地域に根ざした企画展を開催しています。アートが内包する多様な価値観を提示すると同時に地域資源をアートの視点から見直すことを試んでいます。また参加型の企画も行っています。アートウォッチングはアートを能動的に見るための様々な活動を通じて鑑賞の新しい可能性を探るプログラムです。

### ■ ワークショップ ■ アートさんぽ

子どもから大人まで楽しめる様々な企画を実施しています。造形だけでなく身体表現や鑑賞、まち歩きなども組み合わせたオリジナルのプログラムです。講師はそれぞれの分野で活躍するアーティストや専門家が行います。

### ■ たのしい実技講座 ■ やさしい鑑賞講座

たのしい実技講座では初心者の方から次のステップを目指す方まで気軽にものづくりを学び作品制作をすることができます。やさしい鑑賞講座は研究者や専門家を講師に招きアートや文化について「観る・知る・深める」ための講座です。

### ■ 連携事業（地域連携・学校連携）

地域のアートスポットの情報発信に協力するほか、連携してイベントや展覧会などを実施しています。また学校との連携を図りながらアーティスト・イン・スクール事業を実施。学校向けのギャラリートークなども行っています。

### ■ 貸しギャラリー事業

市民をはじめとする一般の方々にアート活動や作品発表の場としてご利用いただくために、館内の展示室およびスタジオを貸出ししています。

## 施設とその成り立ち

1925（大正14）年の創業以来、約80年にわたり市民に親しまれてきたサッポロビール埼玉工場が2003（平成15）年に閉鎖されました。

この工場跡地にリボンシティが生まれ、「まち歩きが楽しい新しい都市空間の実現」を開発方針として、大型ショッピングセンターや住宅街区のほか、アートパーク（並木元町公園）などが建設されました。

緑の木々や芝生などを有するこの公園内にサッポロビール株式会社から建物の寄贈を受け、川口市立アートギャラリー・アトリアが誕生しました。ひろく張り出したウッドデッキを持つ、集成材を利用した木構造の平屋づくり（一部2階建て）の施設は、人とアートが自然のひろがりのなかでふれあうよう設計されました。

サッポロビール工場の土台を支えた松杭がギャラリーの床材として再利用されています。

## 名前の由来

「アトリア」とは、アート、アトリエ、リア\*に由来する造語であり、施設がアート活動を通した市民の憩いの場となるようにとの願いが込められたものです。

2005（平成17）年8月に名称を募集し、全国46都道府県から寄せられた1649通（市内からは799通）の応募のなかから厳正な審査の結果「アトリア」が愛称として採用されました。

※川口総合文化センターの名称「リア」を指します。



■=企画展 □=企画展関連イベント ■=共催事業 ■=特別展  
●=ワークショップ ●=たのしい実技講座 ●=やさしい鑑賞講座 ●=アートさんぽ ●=アートウォッチング

月	事業内容	貸しギャラリー
2021 4月	●金継ぎ技法入門ー繕いのうつわ▶4月24日・25日	
5月	●石けんで!? はじめての彫刻▶5月1日・2日 ●大きく描こう! カラフルちようちょ▶5月5日 ●手でぬるヌル描くマイ妖怪▶5月8日・9日 ■川口市寄贈作品展第二弾「川口のアート、再発見。」▶5月15日～30日	
6月	■川口市歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール及び歯・口の健康啓発標語コンクール▶6月9日～13日 ■「本当に住みやすい街大賞2021 2年連続1位記念」川柳コンテスト▶6月9日～13日 ■ワークショップ成果展示▶6月16日～7月3日 【大きく描こう! カラフルちようちょ/手でぬるヌル描くマイ妖怪】 ■第16回 川口市美術家協会選抜展▶6月16日～27日 ■川口市小・中・高校硬筆展▶6月30日～7月4日	〔展示室A〕コブシの会 第4回川口展▶6月1日～6日 〔展示室B〕在日クルド人の現在2021▶6月9日～13日
7月	●土木デザインを読む 第1回「橋のかたちと機能」▶7月25日 第2回「身近な風景の中の土木」▶7月31日	〔展示室A・B〕狭間節子「回顧展」▶7月6日～11日 〔全館〕小林明日香展「drawing room 1」▶7月14日～18日
8月	●固まれ石膏! つくってみよう自分の島!▶8月7日・8日 ●和竿師からまなぶ! 竹釣竿に初挑戦▶8月14日・15日 ■川口市寄贈作品展第三弾「川口のアート、再発見。」▶8月21日～9月5日	
9月	■第29回 水道ポスターコンクール入賞作品展示会▶9月7日～20日 ●はじめてのガラスワーク▶9月12日・19日 ■川口の美術家たちのアートな毎日▶9月14日～20日	
10月	●芝園団地建築めぐり▶10月24日	〔展示室A〕Catウルアート「秋宵一刻」& Totoro写真展▶10月5日～10日 〔スタジオ〕ラッキーワイド 造形の世界 2021▶10月5日～10日 〔スタジオ〕第32回川口市工芸展▶10月12日～17日 〔展示室A・B〕第56回 川口市小学生図画コンクール入賞作品展▶10月19日～24日
11月	■秋の企画展 第15回 アーティスト・イン・スクール 安部典子（美術家）×川口市立並木小学校6年生96人 成果発表展（線で見つける）▶11月6日～12月5日 講師作品展（発話する線）▶10月30日～12月5日 □アーティストトーク▶11月27日	
12月	■第56回 川口市特別支援学級合同作品展▶12月8日～12日 ●「サンタさん、ここだよ!」絵本作家とお家をつくろう▶12月18日・19日 ■ワークショップ 成果展示▶12月22日～26日 【「サンタさん、ここだよ!」絵本作家とお家をつくろう】	〔展示室A・B〕第16回 小学生「身近な生き物」絵画コンクール展示会▶12月14日～19日
2022 1月	■新春企画展 アートな年賀状展2022▶1月7日～23日 □アートなお正月あそび▶1月10日 ●刷って重ねて! シルクスクリーンでランチョンマットづくり▶1月15日・16日 ●光であそぶ! カラフルアンブレラをつくろう▶1月22日・23日 ■中学生のART CLUB展▶1月29日～2月6日	
2月	■川口市小・中・高校書きぞめ展覧会▶2月9日～13日 ■川口の図工美術まなび展▶2月19日～27日	
3月	■川口まちこぼさ芸術祭2022▶3月16日～21日	〔スタジオ〕第23回「緑と文化の創造展」▶3月3日～6日 〔展示室A〕現代デジタルアート「夢」二人展▶3月8日～13日

※2021年4月1日～2022年3月31日時点の実施事業を一覧にしています。

※表内のグレー部分は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した事業です。

秋の企画展 第15回アーティスト・イン・スクール

# 〈Drawing—線たちは出会う—〉

安部典子作品展〈発話する線〉

2021年10月30日(土)～12月5日(日)

安部典子(美術家)×川口市立並木小学校6年生96人

〈線でみつける〉

授業期間／2021年10月～11月(全5回)

成果発表展／2021年11月6日(土)～12月5日(日)

担当スタッフ／秋田美緒  
グラフィックデザイン／中新(ララスデザイン)  
協力・記録／金田幸三、後藤天



K.K.



K.K.



K.K.

秋の企画展では「アーティスト・イン・スクール」事業を軸に、その講師の作品・制作活動を紹介する展示と、授業の成果を発表する展示を同時に行う取り組みを継続しています。

川口市内の小中学校にアーティストやデザイナーを講師として派遣するアーティスト・イン・スクールは、開館当初(2006年)より継続するプログラムで、様々な試行を重ねながら変化させてきました。複数回の授業で深められる児童・生徒と講師の交流を通じ、互いの想像力・創造力・コミュニケーション力を育てあうことを目的として、例年1校1学年を対象に行っています。その成果を当ギャラリーに展示し、経過をまとめた記録集を作成します。

15回目となる本年度は、講師に安部典子氏を起用し、川口市立並木小学校6年生96

人(3学級)とともに全5回10時間の授業に取り組みました。講師の普段の制作で意識される「線」を軸に、ドローイング・カッティング(線を引く・切る)で自身を表すことをテーマとしました。鉛筆やカッターで自由に線を描く演習の後、プラダン(プラスチックを段ボール状にした素材)に児童自身のシルエットを写しとり、自分らしい線とカタチを探りました。

成果発表展ではすべての作品が一堂に会し、講師提案の天井高を生かした展示方法も相まってにぎやかな会場に。講師作品展では、安部氏の代表的制作シリーズから数点を並べるほか児童と同じくプラダンをつかった新作も展開し、児童と講師が互いに刺激を与えあった様子が伝わる内容となりました。会場内ではアートウォッチングカードを配布し、655枚もの参加がありました。出品

者へのメッセージ・作品の感想などをもらうだけでなく、集まったものを公開することで他者の気づきを知り、また深く作品を味わう視点を得ることを目的としています。また、会期終了後には講師や学校に届けられ、事業全体をそれぞれが振り返るツールになっています。

▼出品作家・講師

安部典子

美術家

1967年埼玉県生まれ。武蔵野美術大学油絵学科卒業後、2004年渡米。2021年現在は埼玉県とニューヨークを拠点に活動。1999年より「線を引く／切る」ことによって平面と立体を行き来する「カッティングプロジェクト」を試行。国内外で精力的に発表を続け、ニューヨーク近代美術館・ホイットニー美術館・うらわ美術館などに作品が収蔵されている。



## 安部典子(美術家)×川口市立並木小学校6年生96人 〈線でみつける〉成果発表展

授業プログラムは、ドローイング・カッティングを軸に「線で自由に自分を表す」ことをテーマとしました。ノートに様々な方法で線を描く演習から、細工用カッター(通常より鋭角の刃)の練習、作品の構想、児童のからだよりも大きなプラダンを切り出すまで、技術だけでなく表現を高めていくためのステップを踏んでいます。等身大の作品に取り組むには少々急ぎ足でもありましたが、完成したものにひとつとして似たものはありません。ノートとプラダンの作品を公開した成果発表展では、それらを一覧することでそれぞれの個性が際立ち、多くの鑑賞者を楽しませました。近隣学校との取り組みとなった今回は、放課後に何度も来館する児童もあり、講師や友人の作品を深く味わうだけでなく、日々増えゆくアートウォッチングカードを読みふける様子も見られました。コロナ禍においてコミュニケーションに制限がかかるなかでも、展示会という機会でも多くの意見が集まる喜びが得られました。

開催日／2021年11月6日(土)～  
12月5日(日)

観覧料／無料



K.K.



K.K.



**アーティスト・イン・スクール  
授業内容・経過**

**1**

**10月7日(木)  
「線」って、なに？**

講師作品の鑑賞を契機に、抽象的な「線」が多くを表現することを学ぶレクチャーを行いました。持ち運べるサイズの作品に「雲?」「滝っぽい」とスケールの大きなイメージを投影し、想像する力・それを喚起するアート作品の力を実感しました。さらに、講師が提示する一定のルール（3分間手を止めない、など）に従ってノートに鉛筆で線を描くゲーム感覚の演習を行い、これからの授業への期待を高めました。



K.K.

**2**

**10月14日(木)  
「線」の練習いろいろ**

線の演習をおさらいしつつ、鉛筆を細工用カッターに持ち替え、線が立体的な造形に変化する様子を楽しみました。ページが重なったノートを直線・曲線を交えながら切り出し、持ち上げる・折る・接着するなど少々手を加えることで迫力ある作品に。終盤には小さなプラダンに切る練習を行い、講師はカッターのつかい方を丁寧に指導しました。



K.K.

**3**

**10月21日(木)  
「線」と「カタチ」**

900×1800mmのプラダンに自分の姿を写しとって切り出す、本番の制作に移ります。白いクレヨンを用いてプラダン上に寝そべるクラスメイトの輪郭をなぞるグループワークから、各自のカタチ・線を探りながら切り出していました。ときに廊下で寝そべて友人と会話し、カッターを握るときは真剣な顔つきで、6年生らしいメリハリある授業態度も見られました。



K.K.



K.K.



K.K.

**4**

**10月28日(木)  
「線」、縦横無尽**

最終的な仕上げでは児童それぞれのペースで制作が進み、縦横無尽に自由な線をつくる様子が見られました。講師は個別に声をかけつつ、カッターの刃を更新させるなどのフォローを行いました。作品を仕上げた児童は、見どころなどを書き出すほか、展示時に配慮してほしい事項（高い位置に展示したい、壊れやすい部分がある、など）もまとめて提出しました。

**5**

**11月11日(木)  
「線」たちは出会う**

当ギャラリー内で展示会の鑑賞を行ったとしました。自分の作品はもちろん、講師や友人の表現を深く味わいました。講師は、線やカタチに優劣はなく、そこに作者の気持ち・性格・時間などが表れていることが重要だとお話しました。「等身大」には今だからこぞできるという意味も含まれます。それらが集まったにぎやかな会場で児童は最後の振り返りのワークシートを記入し、これまでの授業を総括しました。



K.K.



K.K.



**安部典子作品展  
〈発話する線〉**

開催日/2021年10月30日(土)~ 12月5日(日)  
観覧料/無料



K.K.



K.K.



**関連イベント**

**アーティストトーク**

参加者とともに館内を移動しながら、講師が自分の作品や活動・学校での授業について説明しました。ゲストからも様々な質問が投げかけられ、アーティストとしての取り組みだけでなく、美術施設と学校との連携・美術教育の将来など多様な話題が発展しました。終盤に椅子を並べてのトークでは、参加者からも積極的な発言が多数あり、1時間半の開催時間が短く感じられる充実した内容となりました。

開催日時/11月27日(土) 14:00~15:30  
参加者/主におとな 23人  
登壇/安部典子(出品者)、真住貴子(国立新美術館教育普及室長/ゲスト)、秋田美緒(本プログラム担当)  
参加費/無料



K.K.

# アートな年賀状展2022

2022年1月7日(金)～23日(日)

観覧料：無料

担当スタッフ/茂木阿季  
グラフィックデザイン/芝崎曜子



応募者から届いたすべての年賀状を一堂に展示する展覧会。誰もが気軽に出品できる本展は15回目となりました。市内を中心に全国各地から送られてきた864通もの作品は、当ギャラリーのスタッフとサポートスタッフの協働により手作業で展示され、干支である寅をモチーフにした力強いイラスト・カラフルな水彩画など多彩な作品が会場に並びました。出品者からは「毎年の出品を楽しみにしている」「他の方の作品をみて勉強になった」など、くり返し出品する参加者が多くいることがわかるコメントが寄せられています。また、鑑賞者からは「楽しい時間を過ごせた」「新しい発見があった」「自分も年賀状を描きたくなった」などの声がアンケートから読み取れ、展覧会に多くの人々が気持ちを寄せてくれたことが実感されました。前年度にはコロナ禍によって開催方法を変更した恒例イベント「アートなお正月あそび」も対面で実現させることができ、まさに新年の祝いにふさわしいにぎやかな展覧会となりました。

## 関連イベント

### アートなお正月あそび

当ギャラリーのサポートスタッフが約半年をかけて発案・準備・運営までを担う、毎年恒例のイベントです。親子連れを中心とした参加者に気軽な参加を促すため、簡単な工作なゲームなどを行っています。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、事前申込制・各回30分での完全入替制を導入し、2年ぶりに会場での開催を実現しました。干支である寅から着想した「タイガーマスクづくり」と題し、トラ型の透明なシートを材料に、色を塗る・色紙やモールを貼るなどして、オリジナルのお面をつくりました。紐をつけてお面を装着した参加者は撮影ブースに移動してそれぞれのスマートフォンなどで記念撮影を行いました。サポートスタッフの気持ちがかもった運営によって、多くの参加者が制作から撮影までを楽しんでいる様子が見られました。

開催日時/2022年1月10日(月祝)

①10:30・②11:00・③11:30・④12:00・  
⑤14:00・⑥14:30・⑦15:00・⑧15:30

参加者/どなたでも(未就学児は保護者同伴)

①6人・②6人・③8人・④8人・⑤8人・⑥8人・⑦8人・⑧8人

案内/サポートスタッフ・学芸スタッフ

参加費/無料



### 光であそぶ!

#### カラフルアンブレラをつくろう

見慣れたビニール傘をアート作品に変身させ、幻想的な光や空間を楽しむワークショップ。無色のビニール傘の表側に参加者それぞれが好きなモチーフに切ったシールを貼り、真っ黒な絵具で全面を塗りつぶす、意外な作業からスタート。絵具を十分に乾かしシールをはがすと、透明の部分が表れます。そこにカラーセロファンを貼ると、傘はまるで万華鏡のようにカラフルに変身しました。会場の照明を落とし、1人ずつ懐中電灯を持って作品を照らしながら行った鑑賞会では、大きなシルエットが浮かびあがり、スタンドグラスのように鮮やかな光がひろがりました。参加者からの歓声もひろがり、身近なものを材料にした作品が思わぬ空間を生み出す驚きと楽しみを全員で味わう機会となりました。

開催日時/①1月22日(土)・②1月23日(日)

各回13:30～16:30

参加者/小学1～4年生 ①5人・②8人

講師/塩川岳(美術家)

多摩美術大学修士課程終了後、群馬大学長期研修院美術教育在籍。鑑賞者の動きにより成立する参加型インスタレーションを積極的に発表している。学校や地域を舞台に社会とアートをつなげるプロジェクトやワークショップを多数企画・運営。

参加費/500円



### 刷って重ねて! シルクスクリーンでランチマットづくり

版画の一種である「シルクスクリーン」の仕組みを学ぶワークショップ。細かい穴のあいた網戸のような紗を枠に張ったスクリーンとコピー用紙・シールを版に用いる、講師が発案した初心者向けの方法でランチマットをつくりました。はさみで切り抜いた紙やシールを直接ランチマットに貼り、スクリーンをかぶせて固定した後、上からインクを力強く押し込むように刷ります。すると、紙のない切り抜かれた部分からインクが染み出し、マットに色やかたちが表れます。工程をくり返すことで多様な表現につながるため、参加者は、複数の色を重ねる・シールでかたちをつくるなど、それぞれの工夫でオリジナルの作品を仕上げました。ひとつの技法にじっくりむきあいがら、手描きとは違う表現のおもしろさを味わいました。

開催日時/①1月15日(土)・②1月16日(日)

各回13:30～16:30

参加者/①高校生以上9人・②小学3年生～中学生9人

講師/やまさき薫(シルクスクリーン作家)

紙媒体を主としたデザイナー、イラストレーター、シルクスクリーン作家として「暮らすこと、つくること、伝えること」を大切にしたものづくりを目指す。東小金井にアトリエ併設のショップを主宰し、ワークショップも各地で開催。

参加費/500円



特別展

# 川口市寄贈作品展 第二弾 川口のアート、再発見。

2021年5月15日(土)～30日(日)

観覧料：無料

川口市に寄贈された作品を中心に紹介する展覧会の第二弾。本展は、当市の美術活動をけん引してきた「川口市美術家協会」とその前身である「川口市美術家クラブ」を振り返る第1部と、市にゆかりある多様なアーティスト絵画作品を紹介する第2部とで構成しました。

第1部では、川口市美術家協会の歴代会長の作品を順にたどりつつ、団体の活動歴を示すことで、その発展を追いました。ブロンズを主とした彫刻を手がけた富田匠美氏（初代会長）・錫師として茶器・酒器を生産する工房を持った初代松下喜山氏（2代会長）・江戸型染を素地に遊び心ある染物を提案してきた西耕三郎氏（4代会長）など、工芸・彫刻的制作を続けた人物が会長に就任してきた事実から、当該団体が当市のものづくり・鋳物業と強いかかわりをもってきたことを改めて示しました。第2部では、当市に生まれ風土を強く反映させた作品を発表する安達時彦氏・遊馬賢一氏、川口総合文化センター・リリアで展覧会を続けている小川遊氏・山本耕造氏など、かわり方は異なるもののそれぞれの姿勢をもって美術活動を啓発してきたことが認められる画家の作品を中心に、大型絵画を紹介しました。

全体では34点という出品数でありながらも、関連資料や大型作品を充実させ、市のアートシーンの一端を発信する機会としました。



特別展

# 川口市寄贈作品展 第三弾 川口のアート、再発見。

2021年8月21日(土)～9月5日(日)

観覧料：無料



川口市に寄贈された美術分野の資料をひろく公開する展覧会の第三弾では、市にかかわる蒐集家というテーマに触れつつ、日本画・書画を中心に作品を紹介しました。

大正時代から当市内で田原製作所を営み、鋳物業の発展に深くかかわった田原宗十郎氏のコレクションを紹介したコーナーでは、横山大観氏・鏑木清方氏・前田青郵氏など近代日本画の巨匠として評価を確立しているアーティストの作品を展示しました。これらを蒐集し当市へ寄贈した田原氏の人柄や仕事がつたわるよう、田原製作所の仕事や歴史・社会貢献活動をまとめた資料をあわせて提示しました。さらに、市内在住の蒐集家の協力により、棟方志功氏の代表作のひとつとして知られる《二菩薩釈迦十大弟子》全12点から5点を紹介し、当市にかかわる蒐集家の顔を複数の資料から読み解く試みを行いました。

また、多くの掛け軸や墨・岩絵具をつかった作品を並べたことから、第二弾で紹介した川口市美術家協会の活動にかかわる吉田喜代美氏（日本画、9代会長）・市川嘉泉氏（書）の近作もあわせて紹介する機会とし、これを契機に両氏の作品は当市へ寄贈されました。

鑑賞者からは、「もっと多くの作品がみたい」「市内に素晴らしい作品があることにおどろき」といった声が寄せられ、当市の文化芸術への興味を喚起させられた様子を感じられる機会ともなりました。

# ワークショップ

造形だけでなく身体表現や鑑賞活動などを組みあわせたオリジナルのプログラムを、第一線で活躍するアーティストとともに実施しています。大型の制作物を中心に、制作物を展示する成果発表展も不定期で行っています。

## 大きく描こう！カラフルちょうちょ

当館のひろい空間をいかして、個人制作では難しい大きな作品に挑戦したワークショップ。講師が事前に用意した横5m×縦3.5mの巨大な蝶のシルエットに、参加者が制作したカラフルなパーツを貼りつけるコラージュのような方法で、協働制作に取り組みました。参加者がいろいろなかたちの色画用紙にスポンジ・筆と絵具を用いて抽象的な模様を描いたものをたくさんつくり、講師やサポートスタッフがすぐに蝶のシルエットへ貼る、まさに協働作業を続けることで真っ黒な蝶を色鮮やかに変身させました。からだよりの何倍もの大きな絵、全員で力をあわせたからこそ迫力ある楽しい作品を仕上げることができました。



開催日時／5月5日(水・祝)  
①10:00~12:00・②14:00~16:00

参加者／年中長+保護者のペア

①4組(8人)・②5組(10人)

講師／ミヤザキケンスケ(ペインター)

1978年佐賀県生まれ。原色を大胆につかいつながりも細部まで描き込まれた絵画作品、壁画制作やワークショップ開発をメインに活動するペインター。Super Happyをテーマに見た瞬間に幸せになれる作品制作を目指す。Over the Wall世界壁画プロジェクト主宰。

参加費／1000円(1組)



## 手でぬるヌル描くマイ妖怪

手に絵具を直接とって描くフィンガーペインティングの技法に触れながら制作する、触感を大切にしたいワークショップ。日常のなかで居たら面白いオリジナルの妖怪を考えます。床にひろげた紙を妖怪のかたちに切りだし、そこに絵具をのせながら手のひらや指で伸ばしていきます。ぬるぬるとした絵具の質感や混色作業を楽しみながら生まれた妖怪に名前を付けました。鑑賞会では妖怪の特徴や制作中に発見したことなどを発表しあい、参加者それぞれが自由に発想をひろげていった過程を共有しました。

開催日時／①5月8日(土)・②5月9日(日)  
各回13:30~16:00

参加者／小学1~4年生 ①9人・②10人

講師／遠藤夏春(第9回新鋭作家展出品者／美術家)

1984年生まれ。2010年武蔵野美術大学大学院造形研究科油絵コース修了。他者が残した記憶・記録や物語の背景など自身が知り得ない過去・歴史に対して、身体的尺度を基軸とした手法で主観的アプローチを試みる。

参加費／500円(1人)



## 成果展示

担当スタッフ／茂木阿季・柴澤希

2件のワークショップで完成した作品を、窓越しに外からも見えるスペースに展示しました。5月5日に開催した「大きく描こう！カラフルちょうちょ」でできた大きな絵には、蝶がコラージュで描かれ、当ギャラリーの高い天井にも負けない迫力ある展示となりました。さらに5月8日・9日に開催したワークショップ「手でぬるヌル描くマイ妖怪」で生まれたオリジナルの妖怪たちは、不定形の平面作品としてランダムに長い壁へ掲出し、空間を進行するように見立てました。にぎやかで力強い作品は窓の外からも楽しむことができ、初夏の開放的な公園をも巻き込む空間をつくり出しました。

開催日時／6月16日(水)  
~7月3日(土)

観覧料／無料



## 「サンタさん、ここだよ！」 絵本作家とお家をつくらう

講師が用意したクリスマスの物語をもとに、親子のペアでお家をつくりました。真っ白な家をそれぞれにデコレーションしサンタクロースに気づいてもらおうという講師のお話から、見慣れた道具・素材でもひと工夫加えるだけで今までにない作品が生まれるおもしろさを親子で実感してもらおうことを目指しました。未就学児の身長ほどの家に全身でむかっていく制作では、絵具で色やかたちを描くだけでなく、講師が絵本の制作に用いるコラージュ技法にも挑戦しました。新聞紙やアルミホイルなど、身近な素材でも組みあわせによって新しい表現が生まれます。完成後は全員の作品を並べぐるぐると歩きながら鑑賞を行い、それぞれの個性や工夫を楽しみました。

開催日時／①12月18日(土)・②12月19日(日)  
各回14:00~16:00

参加者／年中長+保護者のペア ①5組(10人)・②5組(10人)

講師／すぎはらけいたろう(絵本作家)

1980年愛知県生まれ。絵とデザインの仕事を中心に、空間デザインのディレクションなども手がける。2018年キッズデザイン賞、2021年A' Design Award金賞など国内外で受賞多数。

参加費／1000円(1組)



## 成果展示

担当スタッフ／榎原愛美

「サンタさん、ここだよ！」絵本作家とお家をつくらう」で制作した作品を展示しました。講師が作話したクリスマスの物語にあわせ、家のかたちの作品をまちのような設えで空間内に配置。さらに講師作品である絵本『たべるのだから?』(2020年、東京書店)の原画をあわせて公開し、講師の活動をひろく知ってもらうことで多面的にプログラムを捉える契機となるよう、会場を設計しました。

開催日時／12月22日(水)~26日(日)  
観覧料／無料



## 石けんで!? はじめての「彫刻」

意外な材料で本格的な彫刻技法に挑戦したワークショップ。力を入れずとも削りやすい石けんを素材に、自由なかたちを彫刻刀で削り出しました。3次元でモチーフを考えることだけでなく、カービング(削り出し)の技法そのものも決して簡単なものではありませんが、削った箇所がつるつると透明になる石けんの質感や1kgもの塊が姿を変えていく様子に、参加者は夢中になって制作に取り組みました。講師は、家で手を洗うことによっても彫刻行為が続くとお話しし、持ち帰った作品が刻々と姿を変える楽しさも生まれました。

開催日時／①5月1日(土)・②5月2日(日)  
各回13:30~16:00

参加者／小学校3年生以上 ①10人・②9人

講師／木村剛士

(第9回新鋭作家展優秀者／彫刻家)

1980年生まれ。2007年多摩美術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了。地域との調和をはかりながらも、一定の距離を保ちながら客観的視野に立って取材・制作すること、意外なまちの側面をあぶり出すサイトスペシフィックな作品を多く展開。

参加費／500円(1人)



## 固まれ石膏! つくってみよう自分の島!

石膏と粘土を用いた型による制作を体験。彫刻の基本的な技法に挑戦しました。それぞれの島をつくらうと提案した講師の声かけに沿って、参加者たちは4kgほどの大きな粘土の塊を中心から掘り、腕全体をつかき力強く器状のかたちをつくって溶かした石膏を流し込みます。固まるまでの間、ひっくり返したらどのような島が生まれるかを想像しながら、その特徴や名前を考えました。粘土を慎重に取り除いて生まれた石膏の「島」を、大きな板に並べて鑑賞。反転したかたちを考える難しさには苦心したものの、思わぬ仕上がりを楽しみ、想像を上乗せしていくおもしろさも同時に味わう時間となりました。

開催日時／①8月7日(土)・②8月8日(日) 各回13:30~16:30

参加者／①小学3年生~中学生9人・②小学1・2年生10人

講師／對木裕里(美術作家)

1987年神奈川県生まれ。

2011年京都市立芸術大学

大学院美術研究科彫刻専攻修了。第4回

新鋭作家展優秀者。東京

在住。

参加費／500円(1人)



# たのしい実技講座

各分野のつくり手を講師に招き、気軽にものづくりを学んだりアート作品を制作したりするための講座です。

## 金継ぎ技法入門—繕いのうつわ

合成漆と真鍮粉を用いて行う初心者向けの金継ぎ技法に挑戦した講座。参加者が持参した欠けや割れのある器を適切な方法で継げるよう少人数での実施とし、講師が丁寧に各工程を指導しました。ひび割れた破片は接着剤でつなぎ、欠けた部分はパテで埋めて表面をヤスリで整えます。その後、真鍮粉を混ぜた合成漆を筆で慎重にそっとのせていきました。完成後、参加者からは「大切な器がよみがえって本当に嬉しい」という喜びの声が聞かれ、ひとつのものを大切につかう方法を楽しみながら学んだ様子が見られました。参加者それぞれの作品となった器を撮影しあって感想を交換するなど、少人数制ならではのやりとりも見られ、温かな交流も生まれました。



開催日時/①4月24日(土)・②4月25日(日) 各回13:00~17:00  
参加者/高校生以上 ①6人・②6人  
講師/吉沢 博(金継ぎ師)  
市内で金継ぎ教室を主宰。蒔絵師から基礎を学びつつ、長年に渡り独学で金継ぎ技法を研究する。短時間では難しい体験ワークショップの方法を考案し、近年ではweb上での発信にも力を注ぐなど、幅広く普及活動を推進している。  
参加費/3000円

## はじめてのガラスワーク

フランス語でガラスの練り粉を意味する「パート・ド・ヴェール」に挑戦した本講座。2日間かけてじっくり学び、凹凸を生かしたプレート状の作品を制作しました。まずは石膏の型を彫刻刀で彫り、そこにガラスの粉や粒を入れる作業。型ごと窯で焼いて冷ますと、熱で溶けたガラスが彫った絵や模様のとおり固まります。参加者は、講師から粒子が小さくなるほど気泡が入り不透明になるという性質を聞きながら、色や粒の大きさが違う細かいガラスを丁寧に配置して1日目終了。作品は講師の工房で窯焼きされます。2日目は石膏型をハンマーで割り、ガラスを取り出してヤスリで磨いて仕上げました。透明で硬質なイメージとは異なる優しい風合いの作品が生まれ、ガラス工芸の奥深さを知る貴重な体験となりました。

開催日時/①9月12日(日)・②9月19日(日) 各日13:30~16:30  
参加者/18歳以上 10人  
講師/井上 剛(ガラス作家)  
1970年滋賀県生まれ。大阪芸術大学工芸学科陶芸コース、富山ガラス造形研究所造形科卒業。大阪芸術大学・武蔵野美術大学・長岡造形大学非常勤講師。キルンワークやサンドブラストなどをはじめ建築空間におけるガラスの創造、アートピースなどを制作。墨田区で硝子企画舎を主宰。  
参加費/3000円



## 和竿師からまなぶ! 竹釣竿に初挑戦

天然の竹をつかった差込式(太い竹にひとまわり細い竹を差し、長く組み立てる方法)の釣竿づくりに挑戦した講座。市内に息づく伝統産業でありながら、なかなか触れる機会のないその歴史や技術の一端を講師の丁寧なレクチャーから学びました。小学生を中心とした参加者は、直径2cmもない竹に細い糸をぎゅっと巻きつけていく作業に悪戦苦闘しながらも、根気よく端まで仕上げていきます。最後にニス塗りを塗って2本の竹をつなげると、本格的な竹釣竿が急に表れたように感じられました。実際にハゼなどが釣れるという講師のお話に、コロナ禍が落ち着いた頃には釣りにいきたいと応える参加者もあり、今後の楽しみも生まれた夏休みになりました。

開催日時/①8月14日(土)・②8月15日(日) 各回13:30~17:00  
参加者/①小学1・2年生と保護者のペア 5組(10人) ②小学3年生以上 9人  
講師/山野正幸(和竿師)  
竿昭作二代目、山野和竿店店主。細さと強さを併せ持つ和竿づくりに定評がある。近年では各地でワークショップや講座を行うなど、和竿の魅力を広げる活動を展開。平成23年度企画展(川口の匠)出品者。  
参加費/3000円



# やさしい鑑賞講座

各分野における専門家を講師に招きアートについて「観る・知る」ための講座です。

## 土木デザインを読む 第1回「橋のかたちと機能」 第2回「身近な風景の中の土木」

身のまわりの土木デザインを2週にわたって取りあげた連続講座。第1回は「橋のかたちと機能」、第2回は「身近な風景の中の土木」を軸に、それぞれ異なる講師からお話を聞くことで、多角的にテーマを考え、これからのまち歩きが楽しくなる内容を目指しました。第1回では橋の構造形式を軸に、市民に身近な荒川橋梁にはじまり、海外の古くからある橋やその構造の変遷を追いました。講師の奥井義昭氏は、橋は自然を相手にしているからこそ、技術の進歩だけでなく、その環境が大きく影響していると言います。近隣の橋や有名な橋が登場すると、大きくうなずきながら聞く参加者も見られました。第2回講師の佐々木葉氏は、荒川の堤防を起点に風景論に関するお話を展開しました。「みる対象としての土木」、「みる場所としての土木」が成立し、風景は場所のつながりと時間のつながりを持っているということにも触れ、意識や工夫をもって風景を眺める必要性を参加者と共有しました。

両日ともに質疑応答の時間には、トーク中に取りあげられた構造物や土木の未来について、参加者から熱い質問がいくつも飛び出しました。さらに、「普段見たり感じたりしていることを別の面から考えられた」「実際に行ってみてみたい」といった感想が寄せられ、日頃は見過ごしがちな身のまわりの土木について、親しみを感じる機会となりました。

開催日時/第1回 7月25日(日) 14:00~16:00  
第2回 7月31日(土) 14:00~16:00  
参加者/第1回 18歳以上19人・第2回 18歳以上18人  
講師/第1回 奥井義昭(埼玉大学大学院理工学専攻教授) 埼玉大学工学部卒業、同大学大学院修了。川崎重工工業株式会社、埼玉大学助手・助教、デルフト工科大学客員研究員を経て、2009年より現職。博士(工学)。専門は応用力学・構造力学・橋梁工学。  
第2回 佐々木 葉(早稲田大学創造理工学部社会環境工学科教授) 早稲田大学建築学科卒業後、東京工業大学大学院にて風景論の道に。2003年より現職。NPO郡上八幡水の学校副理事長。『ようこそドボク学科へ! 都市・環境・デザイン・まちづくりと土木の学び方』(2015年、学芸出版社)を監修するなど、執筆活動も多数。  
参加費/各回 300円



第1回の様子



第2回の様子

# アートさんぽ

歴史的建造物や地域産業・文化財だけでなく、身近な場所をめぐるながら新しい視点を見出すためのツアーです。

## 芝園団地建築めぐり

団地愛好家と自治会事務局長を講師にむかえ、UR芝園団地に訪れました。さんぽ前のレクチャーでは、照井氏より団地の設計・歴史をふまえて芝園の特徴を捉えるトーク、さらに岡崎氏より自治会に残る資料や自治会の活動の紹介が行われました。その後、もっとも特徴的な屏風のような長い住棟へ。線路沿いという立地に配慮した防音壁でもあるこの建物の表側・裏側にまわって音の聞こえ方の違いを実感し、現地に赴き五感で土地を味わうおもしろさを実感しました。さら多言語表記が目立つゴミ集積所・異国情緒すら感じられる商店街など、外国人が多いエリアだと実感できる箇所を歩きました。たくさんの方の暮らしの集合体である団地の実態に触れ、建築・土木・多文化共生など、様々な視点を得る盛りだくさんの内容となりました。

開催日時/10月24日(日) 13:00~16:30  
参加者/中学生以上 14人  
講師/照井啓太(団地愛好家)  
団地ファンサイト「公団ウォーカー」主宰。NTT花小金井東住宅で育ち、2021年現在も東京都調布市に位置する公団住宅に暮らす。著書に『日本懐かし団地大全』(2018年、辰巳出版)など、撮影・執筆の活動を行う。  
岡崎広樹(芝園団地自治会事務局長) 近年人口の半数ほどが外国人となったUR芝園団地に住み、自治会活動に参加。地元内外の組織の力をいかし、日本人と外国人の関係づくりを進める「開かれた自治会構想」を活動方針に据え、外国人住民を交えた地域づくりを推進。  
参加費/500円



## 地域・学校連携(共催)事業

### 展覧会

#### 川口市歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール及び歯・口の健康啓発標語コンクール

2021年6月9日(水)～13日(日)

市内の小中学校に通う児童生徒を対象に歯・口の健康について普及啓発し、自分の歯・口の健康に興味を持ち、歯・口を大切にすることが育ちを育成することなどを目的としたコンクール。市内小・中学生から応募された作品のうち、特選を受賞した図画・ポスター及び健康啓発標語を展示しました。



#### 令和3年度(第29回)水道ポスターコンクール入賞作品展示会

2021年9月7日(火)～20日(月・祝)

主催/川口市水道局

昨年度の中止を受け今回は小学4・5年生を対象に、水道への理解と学習の機会をひろげるために開催。4年生の部は1,765点の中から入賞・佳作の62点、5年生の部は860点の中から入賞・佳作の22点が展示されました。



### 研修・実習

コロナ禍により各事業中止

#### 各種研修・実習などへの協力

川口市が推進している市内中学生の社会体験事業「きらり川口夢わ〜く」を中心に、中・高・大学生の職場体験およびインターンシップ事業、各種教員研修などの受け入れを行っています。

#### 「本当に住みやすい街大賞2021 2年連続1位記念」川柳コンテスト

2021年6月9日(水)～13日(日)

本当に住みやすい街大賞2年連続1位を記念し、「川口のこんなところが住みやすい!」をテーマに、市民が住みやすさの情報を楽しく共有し、魅力を市内外に発信するために実施した川柳コンテストの入賞作品が展示されました。



#### 川口まちこうば芸術祭2022

2022年3月16日(水)～21日(月・祝)

主催/川口商工会議所

川口の町工場とアーティスト・デザイナーによる協同企画。石田和人氏をはじめとしたデザイナー・アーティストと市内町工場5社による作品、共立女子大学生による作品展示のほか、キーホルダーをつくるワークショップを開催しました。



## アトリア・サポートスタッフ

(アートボランティア登録制度)

年間を通して多くの事業を開催する当ギャラリーでは、それを支えてくださるボランティアの方々が活動しています。ワークショップや講座の参加者に寄り添い一緒に創作活動に参加したり、スタッフとのミーティングを重ねながらイベントの発案・準備制作・実施運営を担ったりなど、お手伝いとどまらない主体的な活動を目指しています。登録は4～5月に行い、活動期間を1年としています(更新可/中学生以上)。幅広い年齢層・職業の方がアートを通じて交流し、様々な体験とかけがえない時間を共有しています。



### 主な活動内容

#### ワークショップや講座等の運営サポート

ワークショップでは参加者に寄り添いながらそれぞれの楽しみを見つけるサポートを行います。技術や知識は重要ではありません。自身も楽しみながら参加することで感動を発見し、満足感につながる時間・空間の共有を目指します。

また実技講座等では、参加者に積極的に声をかけて実現したい表現を引き出すなど、交流を大切にしながら制作のためのサポートを行います。主体的に企画を提案し運営にかかわることもあります。



#### 展覧会の作品や展示に関わるサポート

主に〈アートな年賀状展〉など市民参加展示では設営や片づけなどの展覧会の裏側にかかわっていただきます。さらに、企画展の出品アーティストが行う取材・制作への協力をお願いすることもあります。

#### 定例会

月に1度程度のペースで活動の内容や方針について話し合う場を設けています。スタッフとやりとりしながらこれまでに気づいたこと・これからやってみたいことを共有し、利用者の目線に立ったより良い施設運営へとつなげます。自分の興味や特技を生かして活動しているメンバーが寄り集まり、意見交換と提案をする機会です。



### 登録者数

令和3年度	14人(2022年3月現在)
-------	----------------



# 貸しギャラリー事業

市民をはじめとした一般の方々にアート活動や作品発表の場としてご利用いただくため、館内の展示室およびスタジオをお貸出ししています。本年度は展覧会などで8件ご利用いただきました。

※一覧はP.19を参照ください。



〈在日クルド人の現在 2021〉



〈ラッキーワイド 造形の世界 2021〉

## 展示空間

### 展示室 (Exhibition Space)

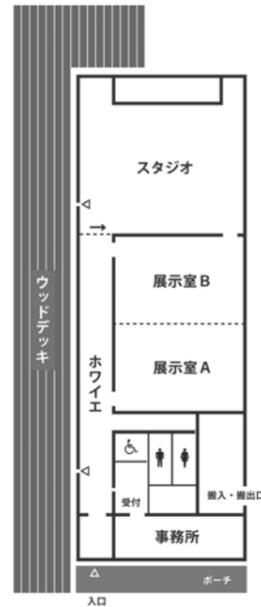
どなたでも気軽に立ち寄れる企画展示や市民のアート作品発表の場です。ゆったりとした空間（天井高5m）で作品発表や鑑賞を楽しむことができます。可動壁により2室に分けられ、小品から大型作品まで様々な展示が可能です。

### スタジオ (Studio)

ワークショップや講座など様々な美術活動を行う場所です。屋外との一体感があるこの空間は創作活動の幅を大きくひろげます。

### ホワイエ/ウッドデッキ (Foyer/Wood Deck)

入口からまっすぐに伸びる通路上の空間です。展示室側の壁には平面作品が展示でき、反対側のガラス窓からはひろいウッドデッキとアートパークが見渡せます。



## フロアマップ

展示室A/77.5㎡・壁面の長さ 計29.1m  
 展示室B/77.5㎡・壁面の長さ 計29.1m  
 スタジオ/195㎡・壁面の長さ 計21.2m  
 ピクチャーレールの高さ/展示室3.5m・その他4.8m

## 利用料

	市内在住・在勤・在学	左記以外
展示室A	10,470円	15,700円
展示室B	10,470円	15,700円
スタジオ	20,900円	31,400円

※料金は1日あたり  
 ※貸出は展示室は1週間ごと、スタジオは1日ごと

## 利用申込

申込は利用期日の1年前から募集を受付しています。専用の「貸しギャラリー申請書」に必要事項を記入のうえ当ギャラリーへ持参してください。郵送・FAXでも受付しています。申請書は、当ギャラリーの受付で配布するほか公式ホームページ (<http://www.atlia.jp>) からダウンロードすることもできます。※申込多数の場合は公開抽選にて決定します。尚、公開抽選は申込期間の翌月（原則第1日曜日）に行います。

## 令和3年度 実施事業件数・利用者数一覧

事業名(企画展)	開催日数(日)	鑑賞者数(人)
ワークショップ成果展示 〈「大きく描こう!カラフルちょうちょ」・ 「手でぬるヌル描くマイ妖怪」〉	16	354
秋の企画展 第15回 アーティスト・イン・スクール	32	1,803
ワークショップ成果展示 〈「サンタさん、ここだよ!」 絵本作家とお家をつくろう〉	5	269
新春企画展 アートな年賀状展 2022	15	1,983
小計	68	4,409
事業名(特別展)	開催日数(日)	鑑賞者数(人)
川口市寄贈作品展 第二弾「川口のアート、再発見。」	14	958
川口市寄贈作品展 第三弾「川口のアート、再発見。」	14	672
小計	28	1,630
事業名(地域・教育機関連携)	開催日数(日)	鑑賞者数(人)
川口市歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール及び 歯・口の健康啓発標語コンクール	5	186
「本当に住みやすい街大賞 2021 2年連続1位記念」 川柳コンテスト	5	350
第16回 川口市美術家協会選抜展	—	—
川口市小・中・高校硬筆展覧会	—	—
令和3年度(第29回)水道ポスターコンクール入賞作品展	13	303
川口の美術家たちのアートな毎日	—	—
第56回 川口市特別支援学級合同作品展	—	—
中学生のART CLUB展	—	—
川口市小・中・高校書きぞめ展覧会	—	—
川口の図工美術まなび展	—	—
川口まちこぼさ芸術祭 2022	6	1,331
小計	29	2,170
合計	125	8,209

※表内のグレー部分は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した事業です。

## ■貸しギャラリー利用

展覧会名	展示室区分	利用日数(日)	鑑賞者数(人)
コブシの会 第4回川口展	展示室A	6	191
在日クルド人の現在 2021	展示室B	6	565
狭間節子「回顧展」	展示室A・B	6	199
小林明日香展「drawing room 1」	展示室A・B・スタジオ	6	141
Cat ウールアート「秋育一刻」& Totoro写真展	展示室A	6	502
ラッキーワイド 造形の世界 2021	スタジオ	6	356
第32回 川口市工芸展	スタジオ	—	—
第56回 川口市小学生図画コンクール入賞作品展	展示室A・B	—	—
第16回 小学生「身近な生き物」絵画コンクール展示会	展示室A・B	6	2,037
第23回「緑と文化の創造展」	スタジオ	—	—
現代デジタルアート「夢」二人展	展示室A	6	199
計		48 ※延べ日数66	4,190

※表内のグレー部分は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した事業です。

年間開催日数	利用者(来館者)	月平均
264日	16,773人	1,398人

## 発行物

### 令和3年度 年間スケジュール

施設紹介を兼ねたパンフレットとして、企画展やワークショップなどの情報をコンパクトにまとめています。

仕様/A4変形サイズ・カラー・3つ折り  
グラフィックデザイン/伊藤ヒロコ (ララスーデザイン)



### 令和3年度 アトリアニュース

隔月毎に展覧会やイベントの最新情報をお知らせするほか、終了したイベントのレポートも掲載するフリーペーパーです。近隣の文化施設などに配布しています。

仕様/A3サイズ・2つ折り、またはA4サイズ  
※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため事業を縮小し、紙面を変更。  
グラフィックデザイン/古谷悠子



### 秋の企画展 報告書

#### 『Drawing—線たちは出会う—』

学校での授業と成果発表展、講師作品展など、多くの要素が含まれる当事業の内容と経過をまとめ、ひろく一般に周知するために作成。講師、対象児童、学校教諭、当館担当者によるコメントを併せて掲載しました。

発行/2022年2月 仕様/B5サイズ・カラー・8ページ  
グラフィックデザイン/中新 (ララスーデザイン)



### 令和2年度 事業年報(アニュアルレポート)

事業を総括した年次報告書。企画展をはじめ、ワークショップ・講座・関連イベントも収録。担当所感をまとめ、開催時の様子を記録写真とともに紹介しています。

発行/2021年8月 仕様/A4サイズ・カラー・16ページ  
グラフィックデザイン/大崎善治 (SakiSaki)



## 川口市立アートギャラリー・アトリア スタッフ

職員 桑原幹夫 (館長)  
渡邊浩之 (主査/事務)  
秋田美緒 (主任/学芸員)  
茂木阿季 (主任/学芸員)  
柴澤希 (美術専門補助員)  
向井ひなの (美術専門補助員)  
榎原愛美 (美術専門補助員)

※2021年度中在籍

## 利用案内

### 開館時間

10:00～18:00 (入館は閉館の30分前まで)  
※企画展開催中は開館時間を延長する場合がございます。

### 観覧料

展覧会によって異なります。

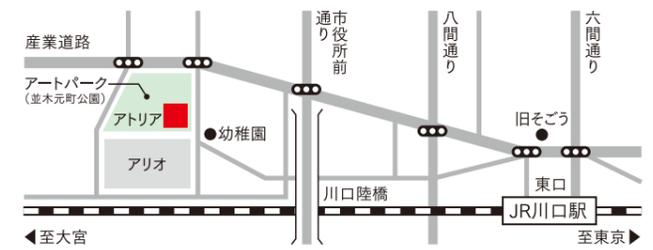
### 休館日

月曜日 ※月曜日が祝日の場合はその翌平日  
年末年始 (12月29日～1月3日)  
施設整備および展示入替期間

### アクセス

JR川口駅 (京浜東北線) 東口から徒歩約8分

### アクセスマップ



## 川口市立アートギャラリー・アトリア

### Annual Report 2021.4-2022.3

#### 令和3年度 事業年報

### 発行日

令和4(2022)年8月31日

### 発行

川口市立アートギャラリー・アトリア ©2022  
332-0033 埼玉県川口市並木元町1-76  
TEL 048-253-0222  
FAX 048-240-0525  
URL <http://www.atlia.jp/>

### アトリアスタッフ

桑原幹夫・渡邊浩之・茂木阿季・柴澤希・榎原愛美 ※発行日時点

### 編集

秋田美緒・柴澤希 (川口市立アートギャラリー・アトリア)

### デザイン

大崎善治 (SakiSaki)

### 写真

本文内で使用している写真には、撮影者名をイニシャルで示しています。  
イニシャル表示のないものはアトリアスタッフが撮影したものです。  
K.K.: 金田幸三

### 印刷・製本

株式会社グラフィック

